

【代表的な研究テーマ】

□ 家事分担の変容と公平感情の研究

□ 社会調査研究

Keyword：家事分担、変容、公平感情、社会調査

研究の概要

1. 家事分担の変容と公平感情の研究

夫婦間の家事分担はいつ、どのように変化するか、の解明を試みる研究に取り組んできました。主な結果として、生活の状況（1日の時間の使われ方やそれぞれの在宅時間、体調等）の変化によって、家事分担の形に変化がもたらされることが見えてきています。また、ご夫婦の家事分担への関わり方（家事を行っている分量や夫婦互いの働きかけ等）が、その分担への不平不満の気持ちを抱くかどうかを左右することも研究結果として示されてきました。（右下の図は、実施した研究の結果の一部です。稼働と家事と育児の分担スタイルと、家事分担への満足度との関係を示しています。）

2. その他の研究活動

家事分担の変容と公平感情の研究の他には、子どもの公平観の発達の研究に取り組んでいます（学外研究者との共同研究）。作業を行って得られる報酬や誰かが行う必要のある作業を、どのように分配あるいは分担するのが良いと思うか、といった問いについての判断を理解しながら、その判断の内容と過程が年齢発達とともにどのように変化していくのかを明らかにしようとしています。

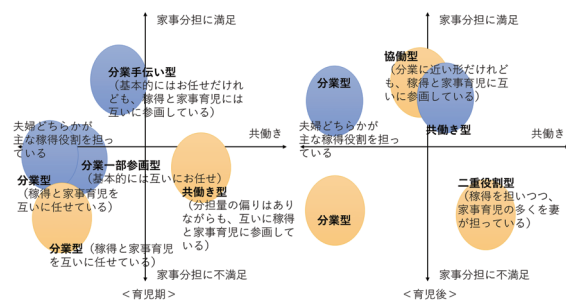


図1. 生活家事の分担方法と家事分担の満足感（稼働と家事と育児の遂行度合いを基に作成したグループを、家事の満足度と共働きか否かの軸によって整理して配置した。黄色が女性、水色が男性のグループ。左側は育児期の結果であり、右側は育児後の時期の結果。稼働、家事、育児、介護等の生活に必要な家事を「生活家事」と総称。）※（滑田・サトウ, 2013）より作成

アピールポイント

家事分担の変容と公平感情の研究では、質問紙調査とインタビュー調査の両方を用いてきました。その経験を活かして、下記の作業に関してはご相談に応じられると考えています。

- ・各種調査の設計
- ・各種調査の計量分析
- ・質問紙調査の自由記述のまとめ
- ・インタビュー調査の語り内容の整理

近年では、上記の研究に加えて、男女共同参画に関わる調査（人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）（人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会：GEAHSSによって実施））の分析にも参加しました。家事分担と働く環境とキャリア形成等に関する調査研究に興味とご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお声かけください。実践や考えを掘り深めることに共に取り組むことができればと考えています。

・関連書籍等：

安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）（2015）．TEA 実践編 複線径路等至性アプローチを活用する．新曜社



滑田 明暢

学術院融合・グローバル領域
大学教育センター
講師

■ 相談に応じられる関連分野

- ・家事分担や公平感情についての調査研究
- ・人の意識や行動、経験の理解を試みる社会調査

■ その他の社会連携活動

- ・公益社団法人 日本心理学会 男女共同参画推進委員会委員
- ・人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences：GEAHSS ギース）調査分析委員会委員